

警鐘レポート 1 ペーシングワイヤー抜去に伴う心損傷による死亡

事例1

< 事例概要 >

- ・小開胸胸腔鏡下僧帽弁形成術・三尖弁形成術を施行。右室横隔膜面にペーシングワイヤーを留置。術後約1週間でワイヤーを抜去。
- ・抜去10分後、胸内苦悶を訴え意識消失し、血圧50mmHg台。心エコーで心腔内虚脱を認め、心停止。レントゲンで血胸を確認し、胸腔ドレーンを留置。多量の出血を認め、再開胸止血術を施行したところ、ワイヤー抜去部から出血（心外膜に3～5mmの線状創）を認め、抜去から2日後に死亡。
- ・死因は、心損傷による胸腔内出血に伴う出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。